

SWD-DA10 導入記(7)

—ヘッドフォン端子—

1. 始めに

オーディオ実験室のその他のページでヘッドフォンの聴き比べを行いました。その際、各機器のヘッドフォン端子間の聴き比べも行いました。今回、SWD-DA10 が加わったことから、SWD-DA10 のヘッドフォン端子を追加して比較してみることにしました。

2. ヘッドフォンの試聴方法

使用するヘッドフォンは SennheiserHD590 に限定しました。

モニター位置は CD 再生と BS 録画の再生では次のようなルートの再生プロセスにおける四つのポイントです。

EMT981 (GPS-777 より 44.1KHz) /BZT-9000→CCV-5 (GPS-777 より 96KHz)
→SWD-DA10 (GPS-777 より 192KHz) →TASCAM DA-3000 (ABS-7777 より 44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (TASCAM DA-3000 から WORD 入力)
PC→SWD-DA10 (GPS-777 より 192KHz) →TASCAM DA-3000 (ABS-7777 より 44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (TASCAM DA-3000 から WORD 入力)
ここで () はクロック入力を示します。

EMT981 ヘッドフォン端子 (Point 1)

SWD-DA10 ヘッドフォン端子 (Point 2)

DA-3000 ヘッドフォン端子 (Point 3)

MYTEK DIGITAL 192-DSD ヘッドフォン端子 (Point 4)

ここで各ポイントの音の差は、①ヘッドフォンアンプの違い、②Point 1 と Point 2 は PCM から変換した音であるのに対し、Point 3 と Point 4 は DSD から変換した音であることの違い、③個々の機器へのクロック入力効果ないしはその累積効果による違いと考えられます。

一方、PC オーディオによる DSD 再生では次のようなルートの再生プロセスにおける三つのポイントです。

PC→FIDELIX HiFi USB→SWD-DA10 (GPS-777 より 176.4 KHz) →TASCAM DA-3000 (ABS-7777 より 44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (TASCAM DA-3000 から WORD 入力)

SWD-DA10 ヘッドフォン端子 (Point 2)

DA-3000 ヘッドフォン端子 (Point 3)

MYTEK DIGITAL 192-DSD ヘッドフォン端子 (Point 4)

この場合、三つのポイントすべて DSD の再生音となります。

3. ヘッドフォンの試聴結果

CD 再生と BS 録画の再生では、Point 1 と Point 2 はともにストレートな PCM の音がしますが、Point 2の方がクロック入力の累積効果のためか、ヘッドフォンアンプの性能のためか、よりディテールの見通しが良く、切れ込みの良い音がします。Point 3 と Point 4 では、ヘッドフォンながら DSD らしい肌理の細かい、焦点が合った音になりますが、Point 4の方がより透明感があります。

PC オーディオによる DSD 再生では、Point 2、Point 3、Point 4とも DSD の音で、大きな違いはありませんが、Point 2がややストレートな音、Point 3がソフトタッチ、Point 4は Point 3からもう少し見通しの良い音に変わった程度です。

4. まとめ

試聴ポイントによる音の違いが確認されましたが、SWD-DA10のヘッドフォン端子の音はかなりのクオリティを有することが分かりました。

以上